

## 研究指定校 取組が進んでいます

今号では、「義務教育の質の保証に資する学校評価システム構築事業」(文部科学省)における研究指定校の取組状況について掲載します。

昨年度より10校の小中学校において、学校教育の充実改善を図るため、「義務教育諸学校における学校評価ガイドライン」の内容等を踏まえ、「学校教育自己診断」「学校協議員制」を活用、「授業評価」を推進し、自己評価や外部評価の実施、及び公表に取り組み、学校評価システムの構築に向けた実践的研究を実施しています。

### 事業内容

自己評価協力校で中期、短期の具体的な目標を設定し、達成状況や取組状況について検証する。これらにより「自己評価書」を作成し、教育委員会事務局及び外部評価委員会に提出する。

外部評価委員会は、学校が示す自己評価及び改善に向けた取組等が適切かどうかを検証する。また、必要に応じて、授業参観等を行う。これらにより、「外部評価書」を作成し、教育委員会事務局及び協力校に提出する。

協力校は、自己評価や外部評価を取りまとめ、学校だよりでの公表やホームページ等を用いて広く公開する。

### 研究指定校

熊野小学校	榎小学校	三国丘小学校	英彰小学校
五箇荘小学校	鳳小学校	浅香山中学校	南八下中学校
美木多中学校	美原西中学校		

平成19年5月8日に、10校が一堂に会して今年度の第1回運営委員会を開催しました。

昨年度より下記の方々に指導助言いただき、学校評価システム構築に向けた実践的な研究が進んでいます。

この10校における2年間の研究の成果を、全小中学校での学校評価の取組に生かしていきたいと考えています。今回の運営委員会でも、学校評価の基礎となる目標及び評価指標の設定について議論が深まりました。10校での取組内容や研究成果をもとに、学校評価システムの全校の構築に向け、自己評価や外部評価の評価指標設定等について整備を進めていく予定です。

### 指導助言者（敬称略）

田中博之	大阪教育大学 教授
大野裕己	大阪教育大学 准教授
山下晃一	和歌山大学 准教授
吉年純子	元堺市立美木多中学校長
末吉正典	堺市立浜寺小学校 学校協議員



### 分科会での討議より

- ・この事業を進めていくことで、保護者にビジョンを示すきっかけになった。
- ・評価表の作成は、学校での取組を整理できるよさがある。
- ・評価そのものは、学校運営の自立化につながっていくものである。
- ・この事業での目標は、理念として理解している教職員の意識が、行動連携・チーム力として具体化し、広がっていくことである。
- ・職員間で、数値に現れにくい子どもの実態を出し合い、共通理解から共通行動へとつながっていくように取り組んでいる。このことが、子ども理解、学校改善につながると考えている。
- ・指標を具体的な子どもの姿にすることで数値に替えることができるのではないか。

### 指導助言より

- ・オーダーメイドの評価項目を作るとよい。「こんなことをやっている」、「こんなことを見てほしい」というように職員で練り上げることが重要である。
- ・評価は、節目節目にするとよい。
- ・学校評価はコミュニケーションと研究組織の見直しである。
- ・保護者が参画するシステムづくりを考えていくことが必要である。例えば保護者を授業評価者として育てていくことも大切である。
- ・学校が目標に対して、どこまでがんばったかが大切である。
- ・目標が達成されなかった時に、共通行動が足りなかったから達成されなかったのか、共通行動は足りていたが子どもの姿に出てこない原因は何だったのか等、明確にすることが大切である。

### ◇ 「教育委員会短信」 掲載します

教育委員会事務局と学校園の情報交流を「迅速に」「わかりやすく」「双方向で」行うためのツールとして、この「学校教育情報・堺」に「教育委員会短信」のコーナーを設けることになりました。

教育委員会事務局内の各部・各課からの情報を掲載します。

掲載記事としては、

- ①事業案内(研修、イベントなど)
- ②教職員への伝達事項(方針の周知、事務連絡、留意事項など)
- ③教育をめぐる国・府の動向

等

### ◇ 各学校園からの記事 待っています

第 86 号においても依頼しておりますが、各学校園での特色ある教育活動、「堺・スタンダード」等の取組の積極的な情報提供につきましても、よろしく願います。